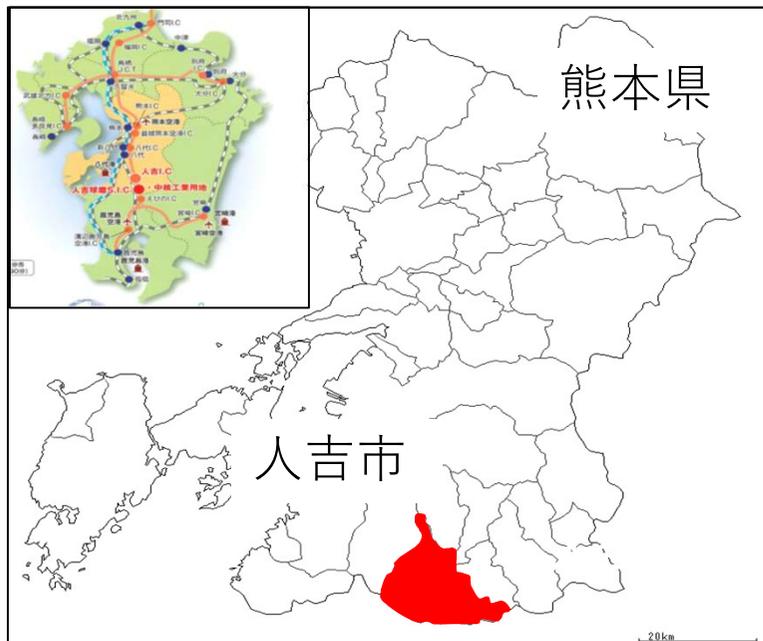


人吉市にとっての スーパーシティ構想

人吉市は、令和2年7月豪雨災害を乗り越え、
これからもここに安心して住み続けるために、
あらゆる知恵を結集し、
次世代につながるまちを創り上げるため、
必要な取り組みを迅速に展開していく必要があります。

この人吉市スーパーシティ構想は
直面する様々な課題を解決し、
未来型復興を成し遂げるためのものです。

また、将来的にはこの取り組みの成果を
被災した球磨川流域の他自治体に展開するとともに、
全国へ復旧復興・防災モデルとして波及させます。



SCに向け取り組むべきコト

防

生命・財産を守り安心・安全を確保する



災害対策、避難対策、防災対策、支援対策など
あらゆる側面からの水害対策を行い、
球磨川と共に生きる人たちと川との心理的距離をさらに縮め
人の流出を抑え、流入を加速させる。

攻

球磨川流域の豊かな恵みを楽しむ



球磨川を中心とした人々の“賑わい”を創出することで
新たな雇用、新たな産業、新たな観光をつくり、
他には例がないような、流域を中心とした文化圏を形成する。



RIVER × CITY × UNITY

“防”と“攻”の両面が一体となった街づくりを推し進め、暮らしと流域の関係性をもっと“自由”にする。

～ 球磨川と共に創る みんなが安心して住み続けられるまち～

HITROYOSHI
「RIVERTY」
構想

先人たちが守り、戦ってきた歴史をリスペクトし、
球磨川流域をより便利に、より安全に、より楽しく再構築する。
流域と共に生き、共に発展するための、さらなる“自由”を手に入れ、
人を、暮らしを、産業を豊かにし、持続可能な街・人吉市を手に入れる。

(各種規制の緩和による“自由”も包含)

HITOYOSHI
「RIVERTY」
構想



『防災』と『観光』を表裏一体に。
“川”と生き、“川”を活かす、未来型復興。

防

くらしの「防」 防災

人吉発！災害から人命を守る仕組みづくり

NOROSHI (狼煙)

～光による逃げ遅れゼロ化～

SENRO (川路)

～情報収集高度化による早期被害情報把握～

YASURAGI (安らぎ)

～きめ細かな避難時支援によるストレス低減～

攻

くらしの「攻」 観光

光と水で地域を活性化する仕組みづくり

AKARI (灯り)

～灯りの情景による観光客誘致～

TAMARI (溜まり)

～「かわまちづくり」による滞在時間の拡大～

YAWARAGI (和らぎ)

～リアルタイムデータによる観光マーケティングの高度化～

【くらしを支えるベースインフラ】

エネルギー

大容量蓄電池・VPPを活用したレジリエスタウン

災害公営住宅をフィールドとしたゼロカーボントウン

支払い

トークンエコノミーの実現

行政サービス

災害時行政手続きのデジタル化

AIチャットボットによる窓口問い合わせ対応

未来型復興を成し遂げ、住民に希望を灯し、関係人口の創出へ

1 「灯り」による”避難誘導の仕組みの構築”並びに”観光客誘致”

防

NOROSHI (狼煙)

～光による逃げ遅れゼロ化～



誰にでも分かる、防災アラート

観光地だからこそ、有事への備えもより一層重要に。
照明がスマートフォン非所持者や観光客に
緊急事態を伝え、避難すべき先へと導く光の道標。

- ◎一目でわかる高齢者等避難・避難指示
- ◎サーチライトで遠方からも避難先へ誘導
- ◎大容量蓄電池による安定した電源供給

有事と平時での
仕組みの使い分け

攻

AKARI (灯り)

～灯りの情景による観光客誘致～



夜こそ歩きたくなる、光の演出

復興の未来を象徴する祈り火としての灯り。
人吉城跡や球磨川に架かる橋、観光客の集まる
街を灯す、新たな観光資源。

- ◎夜間のそぞろ歩きを誘発
- ◎SNSでの拡散にも効果を発揮
- ◎季節のライティングでリピート性の向上も

【「灯り」の誘導に関する主な規制緩和】

河川法・河川敷地占用許可準則の明確化、蓄電池を活用したエネマネ事業における電気事業法等の緩和

2 「かわまちづくり」による“被害状況の早期把握”と“観光促進”

防

SENRO (川路)

～情報収集高度化による早期被害状況把握～



縦横に走る河川を活用した情報収集

情報の欠如は災害対応を困難にし、住民にも大きなストレスとなる。情報やモノの欠如を「かわ」を活用した取組で高度化。

- ◎河川上を航行する自動運航ドローンで状況把握
- ◎避難所間の物資融通を簡単に
- ◎SNS高度処理技術を活用した情報収集

有事と平時での仕組みの使い分け

攻

TAMARI (溜まり)

～「かわまちづくり」による滞在時間の拡大～



水辺で人吉を満喫するサービスの提供

通過都市となってしまっている問題を解決する「水辺」を用いた家族の滞在型スポットの創出。

- ◎棧敷席からのオーダーとドローン配送
- ◎名産球磨焼酎を人吉の自然と共に提供
- ◎SNS投稿を解析しデジタルマーケティング活用

【「かわまちづくり」に関する主な規制緩和】

ドローン自動運航における航空法の緩和、酒税法における複数酒類の製造免許取得要件緩和

3 「リアルタイムデータ活用」による“避難者の安全確保”と“マーケティング”の高度化”



【 「リアルタイムデータ活用」に関する主な規制緩和 】

地域通貨の利活用に関する資金決済に関する法律及び金融商品取引法の規制緩和

主な規制緩和一覧

「灯り」の誘導に関する主な規制緩和



河川法・河川敷地占用許可準則の明確化、
蓄電池を活用したエネマネ事業における電気事業法等の緩和



「かわまちづくり」に関する主な規制緩和



ドローン自動運航における航空法の緩和、
酒税法における複数酒類の製造免許取得要件緩和

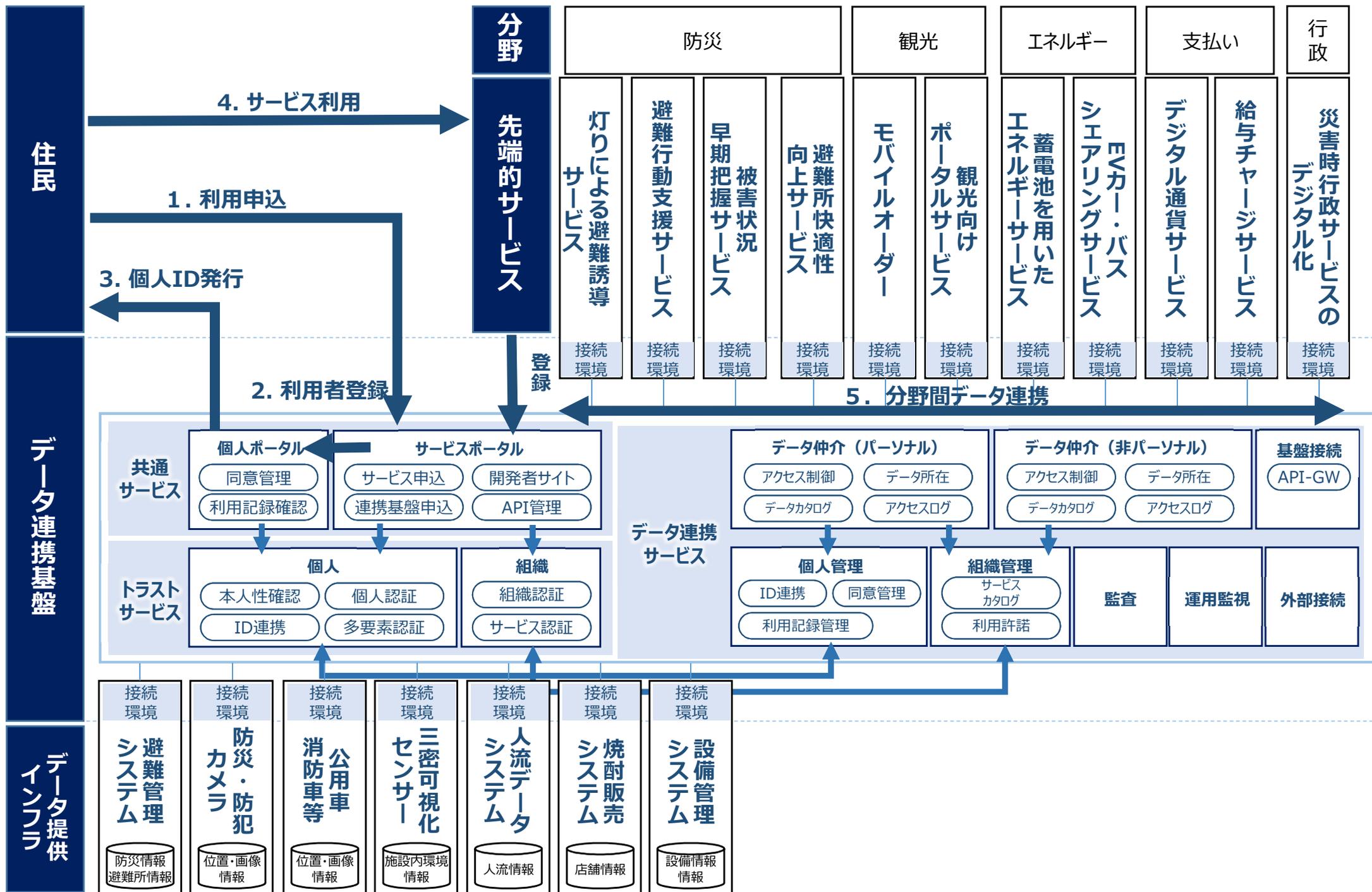


「リアルタイムデータ活用」に関する主な規制緩和



地域通貨の利活用に関する資金決済に関する
法律及び金融商品取引法の規制緩和





○住民説明会の開催、パブリックコメント等、住民その他の利害関係者の意向把握のために講じた措置の内容及び実施状況

・町内会長を対象とした説明会の実施

説明会等名称	日時	場所	参加者
大畑校区説明会	令和3年2月 8日（月） 19:00～	大畑コミュニティセンター	8名
中原校区説明会	令和3年2月 9日（火） 10:00～	堀公民館	19名
東間校区説明会	令和3年2月 9日（火） 14:00～	西間上町公民館	15名
西校区説明会	令和3年2月10日（水） 14:00～	東西コミュニティセンター	8名
西瀬校区説明会	令和3年2月12日（金） 10:00～	下戸越公民館	10名
東校区説明会	令和3年2月12日（金） 16:30～	東西コミュニティセンター	18名

※復興計画（素案）、今後の復興まちづくり計画の検討に向けた住民説明会において、「スーパーシティ構想」について説明（復興計画第5章 未来につながるまちづくり）

・防災分野のエリアを対象とした住民説明会・アンケートの実施（結果等の詳細は次ページ参照）

説明会等名称	日時	場所	参加者
相良町住民説明会	令和3年3月15日（月） 13:30～、19:00～	人吉市まち・ひと・しごと総合交流館	28名
上薩摩瀬町住民説明会	令和3年3月16日（火） 14:00～、19:00～	〃	20名
下薩摩瀬町住民説明会	令和3年3月23日（火） 14:00～、19:00～	〃	41名

※説明会に参加できなかった方向けにも、人吉市SC構想のチラシを同封し、アンケートを回収

○住民等の意向把握、確認について今後の予定

選定後、7～8月頃、住民説明会を実施。その後必要に応じて、随時住民等の意向確認を行う。

S C構想に係る住民説明会・住民アンケートの実施について ①

【住民説明会】

- ◎3月15日、16日、23日／各2回（昼夜）
計6回実施
- ◎対象地域：特に防災分野の実証フィールドとして
想定している3町内
（上薩摩瀬町、下薩摩瀬町、相良町）
- ◎内容：S C構想取組内容、アンケート

【住民アンケート】

- ◎発送：3月9日（3月24日×切）
- ◎対象：768世帯へ送付（上薩摩瀬町、下薩摩瀬町、相良町）
- ◎内容：年代、避難行動要支援者、スマホ所持、実証への賛否、個人情報提供への賛否



集計状況は次ページ

S C構想到係る住民説明会・住民アンケートの実施について ②

取組への賛成

71.86%

◎説明会：89.86%
◎郵送：67.68%

個人情報同意

76.50%

◎説明会：88.41%
◎郵送：73.74%

アンケート回答状況（4/1現在）

総計	回答数	スマホ所持	取組への賛否	個人情報同意
割合	47.7% (366件)	66.94%	71.86%	76.50%

郵送分	回答	スマホ保持	取組への賛成	個人情報同意
相良町	68	57.35%	64.71%	70.59%
上薩摩瀬町	57	61.40%	70.18%	75.44%
下薩摩瀬町	135	69.63%	68.15%	76.30%
その他町内	37	62.16%	67.57%	67.57%
計	297	64.31%	67.68%	73.74%

説明会分	回答	スマホ保持	取組への賛成	個人情報同意
相良町	23	82.61%	95.65%	91.30%
上薩摩瀬町	12	83.33%	91.67%	91.67%
下薩摩瀬町	27	74.07%	85.19%	85.19%
その他町内	7	75.00%	85.71%	85.71%
計	69	78.79%	89.86%	88.41%

參考資料

(九州地方整備局提供)



先端的サービスの概要

防災

防災

3つを実現する「新防災」サービス

逃げ遅れゼロの仕組み

被害状況の早期把握

避難時支援

デジタルマイタイムライン・
パーソナル通知



個人の位置/状況に
応じた情報提供

GPSトラッカーを
スマホ非所有者へ



声を掛け合い
避難する仕組み

光の狼煙



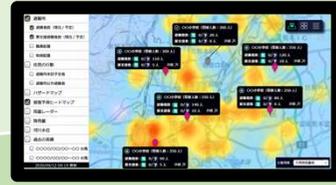
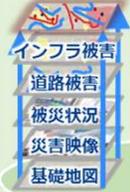
照明技術を利用した
視覚的なアラート

スマホ非所持者にも対応

AI参謀



デジタル行政タイムライン
+
SNS情報収集システム
+



住民避難状況/
被害実態の見える化

気象情報、SNS情報、識者知見、市中カメラ
自動運航ドローンカメラ等

顔認証等による
避難所運営の省力化・効率化



- ・避難所受入が効率的
- ・三密情報も情報発信

避難者への災害情報や
物資過不足調整による快適化



モバイルオーダーによる
避難所間物資融通

観光

新防災サービスアセットを
観光資産化



イルミネーションイベント
避難訓練/防災訓練イベント
(企業協賛等を含む広告収入)

支払い

地域の模範リーダーへ
地域ポイントを付与

エネルギー

災害時の非常用電源や
物資輸送支援



EVカー・EVバスの
シェアリング

データ連携基盤

(各サービスの説明) 先端的サービス 1

○先端的サービスの名称

令和2年7月豪雨災害の教訓を踏まえた「平常時と災害時に表裏一体で活用可能」な防災システム

○対象分野

防災分野（観光分野、エネルギー分野、行政サービス分野と連携）

○先端的サービスの内容

1. 逃げ遅れゼロを目指した避難行動支援システム（1）

【現状・課題】

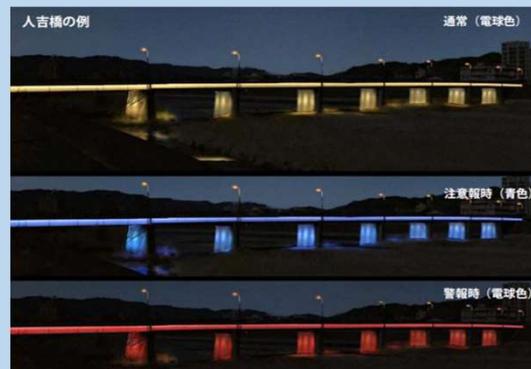
令和2年7月豪雨により人吉市の中心部を流れる球磨川が氾濫、市街地を含め市全体で3,000世帯以上が浸水被害、死者20名（人吉市のみ）。今後「逃げ遅れゼロ」を目指す中で、適切かつ迅速な住民の避難行動を促すためには、下記の課題がある。

- (1) **住民認知**：住民は豪雨の音により防災無線が聞こえづらく、危険の認知ができなかった
- (2) **避難判断**：住民は避難をすべきかの判断ができず行動をおこせなかった

●照明技術を活用した視覚的な防災アラート

【サービス内容・効果】	【先進性・革新性】
<p>災害リスクを住民へ認知させるために、これまでの防災無線等の伝達手段に加え、照明技術を利用した視覚的なアラートを構築する。具体的には、市内からも広く視認できる人吉橋等の橋梁を照明で危険度に応じて照らすこと、及び雨天においても視認性が確保されるサーチライトで住民へ危険を伝える。</p> <p>これまでの音声や文字情報による情報伝達だけでなく、視覚的なアプローチで多重性（リダンダンシー）を確保し、スマートフォン所持者も含めた住民の危険認知の状況を改善する。</p>	<p>照明技術を利用した警戒レベルに合わせたライティング防災アラート“NOROSHI”の実現。</p> <p>照明の色や角度、照らす場所など住民が危険を認知できる最適な手段を京都芸術大学客員教授の長町志穂氏の知見を踏まえ、避難訓練等を通じて実証を行い、最適解を追究し仕組みを確立する。</p> <p>また、日常においてもこの照明を観光用イルミネーションとして活用し、住民認知を広めるとともに、広告収入などを獲得するビジネスモデルを設計し持続可能な取組みとする。また、電源は地域の再生可能エネルギーを大容量蓄電池に貯め利用する。</p>

ライティング
防災アラート
“NOROSHI”



(各サービスの説明) 先端的サービス 1

○先端的サービスの名称

令和2年7月豪雨災害の教訓を踏まえた「平常時と災害時に表裏一体で活用可能」な防災システム

○対象分野

防災分野（観光分野、エネルギー分野、行政サービス分野と連携）

○先端的サービスの内容

1. 逃げ遅れゼロを目指した避難行動支援システム（2）

●住民へのカスタマイズされた情報提供システム

【サービス内容・効果】	【先進性・革新性】
<p>今までの画一的な同報通知だけでなく、住民が「わがごと」として避難行動をとれるような情報提供を行うとともに、共助の仕組みを構築する。</p> <p>具体的には、住民の避難行動計画（マイタイムライン）を従来の紙からデジタル化することで、災害時に住民の属性や計画、現在位置に合わせた個人個人のニーズに沿った情報を提供する。</p> <p>さらに、避難した理由として「近所の声掛け」が多数あげられた事実から、顔認証技術を利用するデジタルローカルコミュニティやGPSトラッカーを活用し共助の仕組みを実現する。</p>	<p>災害時の近所の声掛けを誘発するデジタルローカルコミュニティの形成。主なポイントは、「1 顔登録による信頼性の向上」、「2 模範者へのインセンティブ給付」の2点。避難行動支援システム（A1システム）の機能拡張により実現する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 一般的なSNSとは異なる、顔と名前が特定できるローカルSNSにより、信頼できる人間関係と情報交換を実現。災害時に対面やりモートでの避難声掛けを可能とする。スマートフォンを持たない方にはGPSトラッカーを配付、逃げ遅れた者をピンポイントで把握しローカルコミュニティで支援する仕組みを構築。 マイタイムライン登録や避難訓練の参加状況等から、インセンティブとして地域通貨によるポイントを給付する。地域通貨の給付ポイントについては、要支援者への呼びかけの計画や実行、避難訓練参加度などに応じてポイント計算。また、この取り組みを通じ、地域通貨・顔認証の普及を狙う。



(各サービスの説明) 先端的サービス 1

○先端的サービスの名称

令和2年7月豪雨災害の教訓を踏まえた「平常時と災害時に表裏一体で活用可能」な防災システム

○対象分野

防災分野（観光分野、エネルギー分野、行政サービス分野と連携）

○先端的サービスの内容

2. 被害状況等を早期に把握できるシステム（1）

【現状・課題】

令和2年7月豪雨の際の本市災害対策本部の課題として、球磨川の水位の急激な変化や避難住民の把握が遅れたことなどが挙げられる。これは、被害状況をリアルタイムかつ一元的に把握できる仕組みがなかったことや、災害対応時のマンパワー不足が主要因と考えられ、情報収集や職員の業務省力化を図るにあたり、下記の課題がある。

- (1) 状況識別の省力化：精度も鮮度も様々な情報の中から災害実態を識別することが困難である
- (2) 災害対応業務の省力化：職員が、SNSの情報入手や消防等の関係機関が把握する情報を確認する余裕がない

●ドローン自動運航等による災害情報収集及び災害タイムラインのデジタル化

【サービス内容・効果】	【先進性・革新性】
<p>災害対応の意思決定においては、気象予報や水位情報等のテキストデータと併せて、映像や画像情報が極めて重要になる。</p> <p>このため、自動運航ドローンカメラの映像や、市中配備する防災・防犯カメラや公用車（消防車両等）の車載カメラ映像等を活用し、位置情報をもとにこれらをデジタル地図上にプロットし確認できるようにする。</p> <p>また、本市にて作成中のマルチハザードタイムラインをデジタル化し、災害対応開始トリガーに達した段階で担当職員にプッシュ型で行動内容を通知することで、迅速かつ漏れのない災害対応を実現する。</p>	<p>被災の状況を確認するためにドローン自動運航によるリアルタイム映像や、防災防犯カメラ、公用車映像を取得しデジタル地図上で撮影位置と共に確認可能とする。プライバシーに配慮するため、顔認識技術により、映像に映る顔をモザイク加工することで、住民懸念を緩和しサービスを運用可能とする。</p> <p>また、平常時に観光用途として、市中カメラと顔認識技術を利用したリモートセルフィー写真撮影をサービス化する。観光客へ撮影写真を販売（市民への記念日写真の提供も実施）。</p> <p>これにより、防災用途の設備を活用した収益モデルを実現する。</p>

※ドローンについては、球磨川の上空など万が一の落下のリスクを軽減できる場所を優先する飛行ルート選定により安全な飛行を実現。職員の手間やパイロットの人的費用を考慮して自動運航とする。また、観光サービスのイルミネーションイベントの中で、夜間の自動運航の試験と観光資産に活用する。



ドローン自動運航による災害情報収集



災害タイムラインのデジタル化（職員へのプッシュ型通知）



(各サービスの説明) 先端的サービス 1

○先端的サービスの名称
 令和2年7月豪雨災害の教訓を踏まえた「平常時と災害時に表裏一体で活用可能」な防災システム

○対象分野
 防災分野（観光分野、エネルギー分野、行政サービス分野と連携）

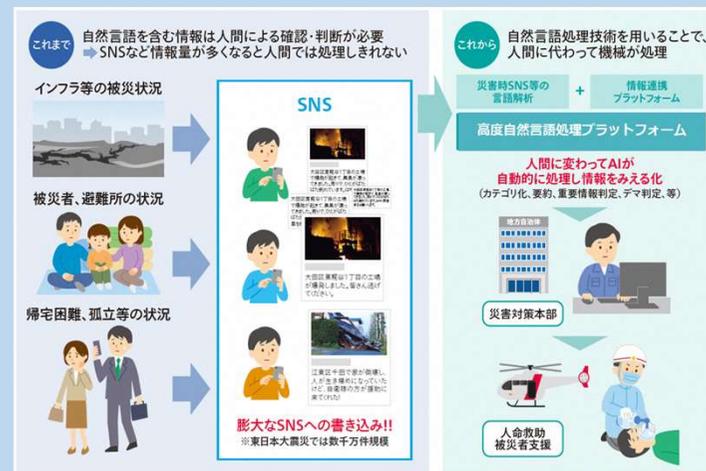
○先端的サービスの内容

2. 被害状況等を早期に把握できるシステム（2）

●高度自然言語処理技術を用いたSNS情報収集システム

【サービス内容・効果】	【先進性・革新性】
<p>災害状況に関するSNS投稿を高度自然言語処理技術を用いることで人間に代わってAIが情報を見える化（カテゴリ化、要約、重要情報判定、デマ判定等）する。</p> <p>さらに、twitterのような一般SNS投稿だけでなく、消防団やインフラ企業のグループ内メッセージや新たに開発するローカルSNSに入力されたコメントから、選りすぐりの重要情報を参照可能とする。</p> <p>これにより、災害対策本部において、被害状況などの把握のための情報ソースや情報量を増やすことが可能になり、また業務省力化の効果を実現する。</p>	<p>サービスが進む一般的SNS投稿の解析だけでなく、災害時の消防団やインフラ事業者のLINE等のグループ内メッセージを高度自然言語処理エンジンで解析、重要情報を抽出可能とする。</p> <p>さらに、平常時の観光や生活に関わるSNS投稿の解析を実現し、デジタルマーケティングに利用する。</p> <p>「一石二鳥」の発想で、災害時に備えた運用の効果を狙うとともに、観光や生活に価値創出を行う。</p>

マルチSNSの解析サービス



(各サービスの説明) 先端的サービス 1

○先端的サービスの名称

令和2年7月豪雨災害の教訓を踏まえた「平常時と災害時に表裏一体で活用可能」な防災システム

○対象分野

防災分野（観光分野、エネルギー分野、行政サービス分野と連携）

○先端的サービスの内容

3. コロナ禍における避難所運営の効率化及び快適化

【現状・課題】

有事における住民にかかるストレスの大きな要因として、避難所での生活がある。災害による被害もさることながら、従来の生活の場を離れ、災害情報の収集にも支障を来し、必要物資の供給も不規則となり、不安を増大させる場となっている。特にコロナ禍にあっては、こうした避難所での生活を改善し、ストレスを軽減することも、早期の復興に向けた重要なポイントである。

また、スマートフォンの非所持によって情報格差が生じることもストレスの要因となっている。

【サービス内容・効果】	【先進性・革新性】
<p>災害発生時の各避難所のキャパシティを可視化し、人の偏りを回避。また、避難所内の環境を把握し、室温や湿度の異変等に早期に気付くシステムをつくる。</p> <p>物資等の配給に関しても、避難所によって不足や余剰が生じるため、相互に余剰物資を管理し、分け合うための仕組みを構築。</p> <p>また、スマートフォンの有無による情報格差を軽減するため、デジタルサイネージを用いた情報配信を行う。</p> <p>さらに、循環式のシャワー設備を用意し、避難所生活の中での生活水準を上げ、ストレスの軽減を図る。</p> <p>なお、これらの各ソリューションは、平時は観光ソリューション(混雑状況・感染予防、栈敷席からのオーダー、川遊びにおける洗浄施設)として用い、機材の共有化を図る。</p>	<p>1 サーマルカメラ（顔認証）による入場管理 避難所の入場に際してサーマルカメラによる検温測定を行うことで、検疫効果はもちろんの事、人数カウントと避難所のキャパシティを連動した可視化を行うことで、受入可能な人数の把握をリアルタイムで行うことを可能にする。</p> <p>2 三密可視化ソリューションでの場内環境把握 避難所内に三密を可視化するセンサーを設置することで、換気状態等を遠隔からも把握可能にし、異変の把握や避難所内での感染症等二次災害の発生を防ぐ。</p> <p>3 デジタルサイネージ活用 三密可視化ソリューションの情報配信サイネージを用いて避難者への情報配信を行い、情報格差を是正する。</p> <p>4 モバイルオーダーによる避難所間物資融通 各避難所における余剰物資を登録し、不足した避難所が取り寄せを行うことのできるデジタル環境を用意する。</p> <p>5 再生水によるシャワー施設 避難所生活におけるリフレッシュのための設備として、循環式のAI水質洗浄システムを用い、限られた水で大勢の避難者がシャワーを浴びられる環境を造る。</p>

サーマルカメラ（顔認証）による入場管理



デジタルサイネージによる各種情報の発信



モバイルオーダーによる避難所間物資融通



(各サービスの説明) 先端的サービス1

○関連する規制・制度改革事項（新たな規制改革の提案、既存の国家戦略特区の特例措置の活用）

【河川法第24条、河川敷地占用許可準則第7】

- ・ライティング防災アラートの設置：河川敷地占用許可準則に規定されている許可対象施設の中に、平時は観光用、災害時は防災アラートとして活用可能な照明設備及び分電盤等の明確な定めがないため、明確化する。

【航空法第132条第1項第2号・航空法第132条の2第1項第5号、第6号、第7号、第8号】

- ・ドローン自動運航：「航空法」で飛行禁止区域とされている「人家が集中している地域」での飛行及び飛行方法の規制となっている「夜間、目視外、人・もの・建物から30m未満の距離、催し場所の上空における飛行」について、球磨川上空での飛行を行うことにすること、自動運航の安全性評価を実証実験を通じで十分に評価することを前提に飛行可能とする。

○スケジュール

実証実験、サービス実装等のスケジュールについて記載して下さい。

1. 逃げ遅れゼロを目指した避難行動支援システム

- ・照明技術を活用した視覚的な防災アラート

2021年度：調査・設計・実証実験、2022年度：システム構築（一部エリアのサービス開始）、2023年度：サービス開始

- ・住民へのカスタマイズされた情報提供システム

2021年度：調査・設計・実証実験、2022年度：システム構築（パーソナル通知機能等一部サービス）、2023年度：サービス開始

2. 被害状況等を早期に把握できるシステム

- ・ドローン自動運航による災害情報収集及び災害タイムラインのデジタル化

2021年度：調査・設計・実証実験、2022年度：システム構築、2023年度：サービス開始

- ・高度自然言語処理技術を用いたSNS情報収集システム

2021年度：調査・設計・実証実験、2022年度：システム構築（一部基本機能）、2023年度：サービス開始

3. コロナ禍における避難所運営の効率化及び快適化

2021年：現地住民の理解促進のため、平常時に飲食店舗などで施設数を絞った導入と、バックエンドのデータ連携の仕組みを実装

2022年：施設数の拡大と広域との連携PoCの実施、避難経路表示システムの構築、避難所での防災訓練等実施

2023年：人吉市全域でのシステム連携の拡大

○先端的サービスを実施する主要な事業者の候補

- ・日本電気株式会社、株式会社ウフル、株式会社システムフォレスト
(株式会社LEM空間工房、ウシオライティング株式会社)

(各サービスの説明) 先端的サービス1

○先端的サービスに係る費用及びその負担主体

1. 逃げ遅れゼロを目指した避難行動支援システム

・照明技術を活用した視覚的な防災アラート

2021年度：照明基本設計、水位システム設計・実施設備設計
 2022年度：設置工事、プログラム調整
 2023年度：運用開始

※人吉橋でのスケジュールをモデルとして記載。（川沿い石垣等他のスケジュールもある）

※災害公営住宅整備のスケジュールや大容量蓄電池設置のスケジュールにより変更する可能性あり。

【導入費用】

LED照明システム：20,000万円

【運営費用】

電気関連費用総額：200万円/年

劣化及び破損等に対する保守費：6,780万円/10年（入湯税から積み立てることを想定）

・住民へのカスタマイズされた情報提供システム

【導入費用】

5,000万円（自治体/補助金）

【運営費用】

500万円/年（自治体）

2. 被害状況等を早期に把握できるシステム

・ドローンによる災害情報収集及び災害タイムラインのデジタル化

実証実験・導入費用6,500万円（自治体/補助金）、運営費用6,500万円/年（自治体）

※注：ドローンによる災害情報収集及び災害タイムラインのデジタル化について、ドローンに関わる運航や機体整備、カメラ設備新規導入の費用は含んでいない。

・高度自然言語処理技術を用いたSNS情報収集システム

実証実験・導入費用（基本機能サービス費1年分）1,000万円（自治体/補助金）、運営費用：未定（自治体）

3. コロナ禍における避難所運営の効率化及び快適化

・ネットワークシステムの構築（データ連携基盤に準拠）

機材費：310万円（検温カメラ、3密可視化システム各10セット）ランニングコスト：330万円/年

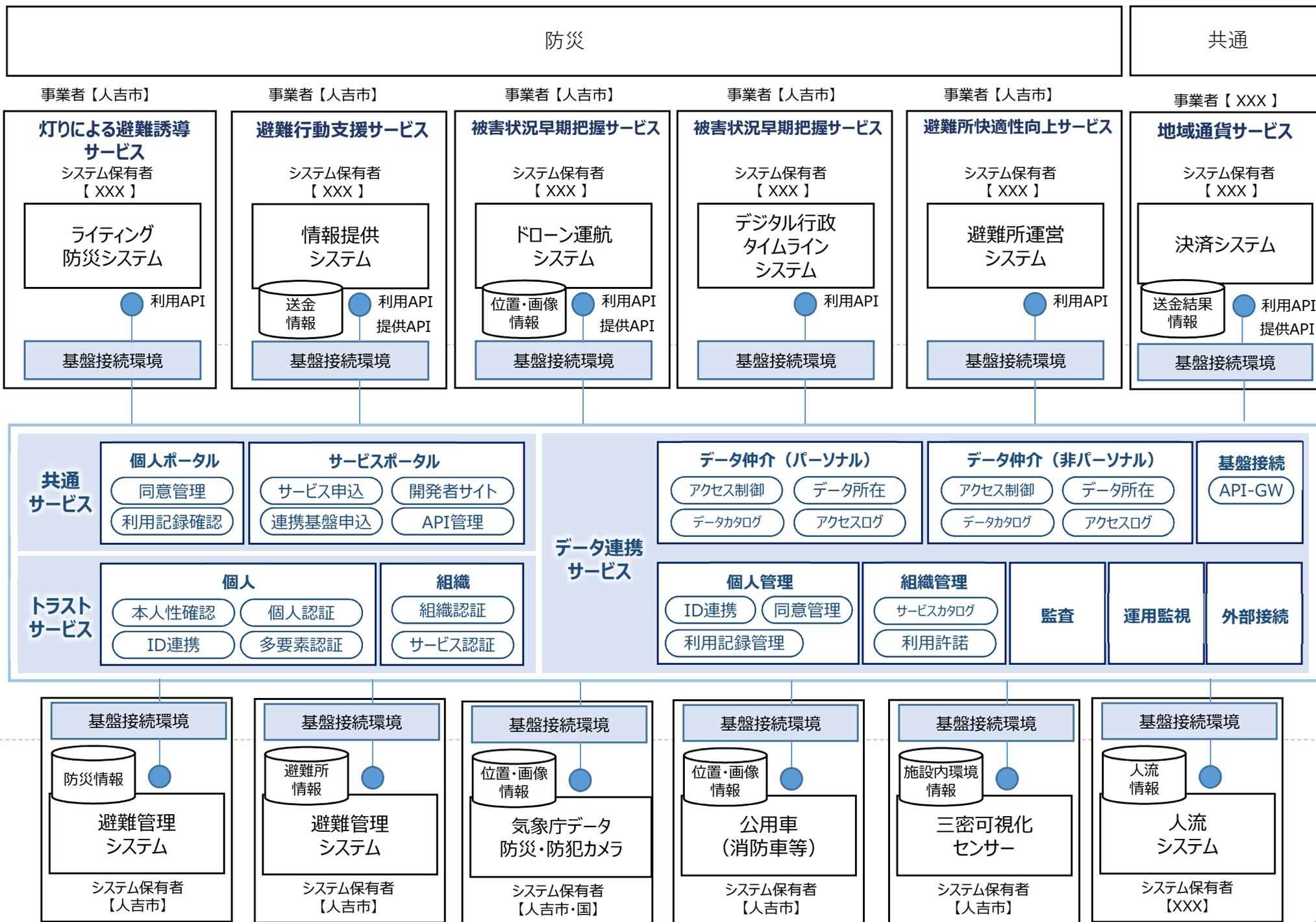
※新型コロナ感染症地方創生臨時交付金を想定

分野

先端的サービス

データ連携基盤

データ提供インフラ

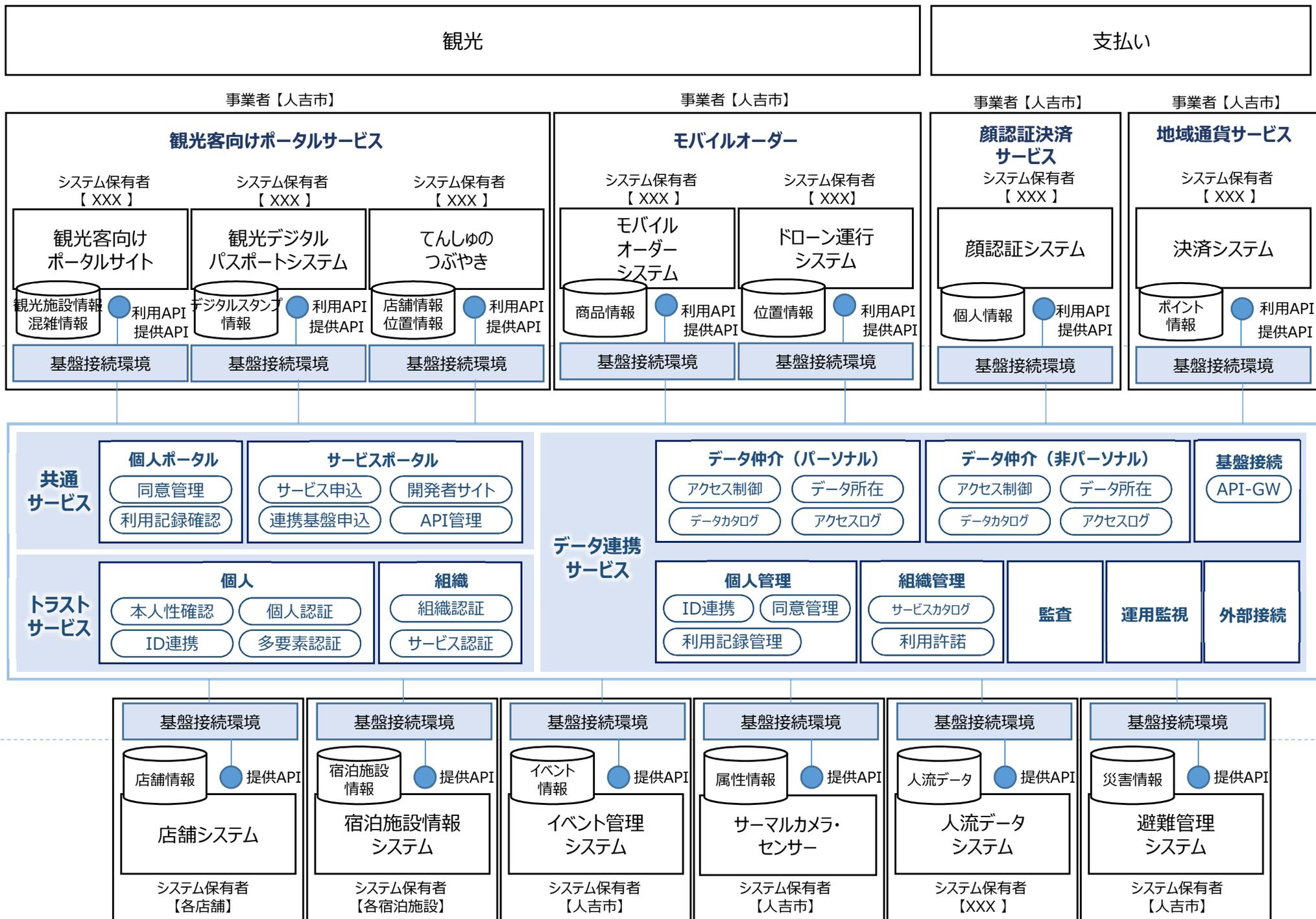


分野

先端的サービス

データ連携基盤

データ提供インフラ

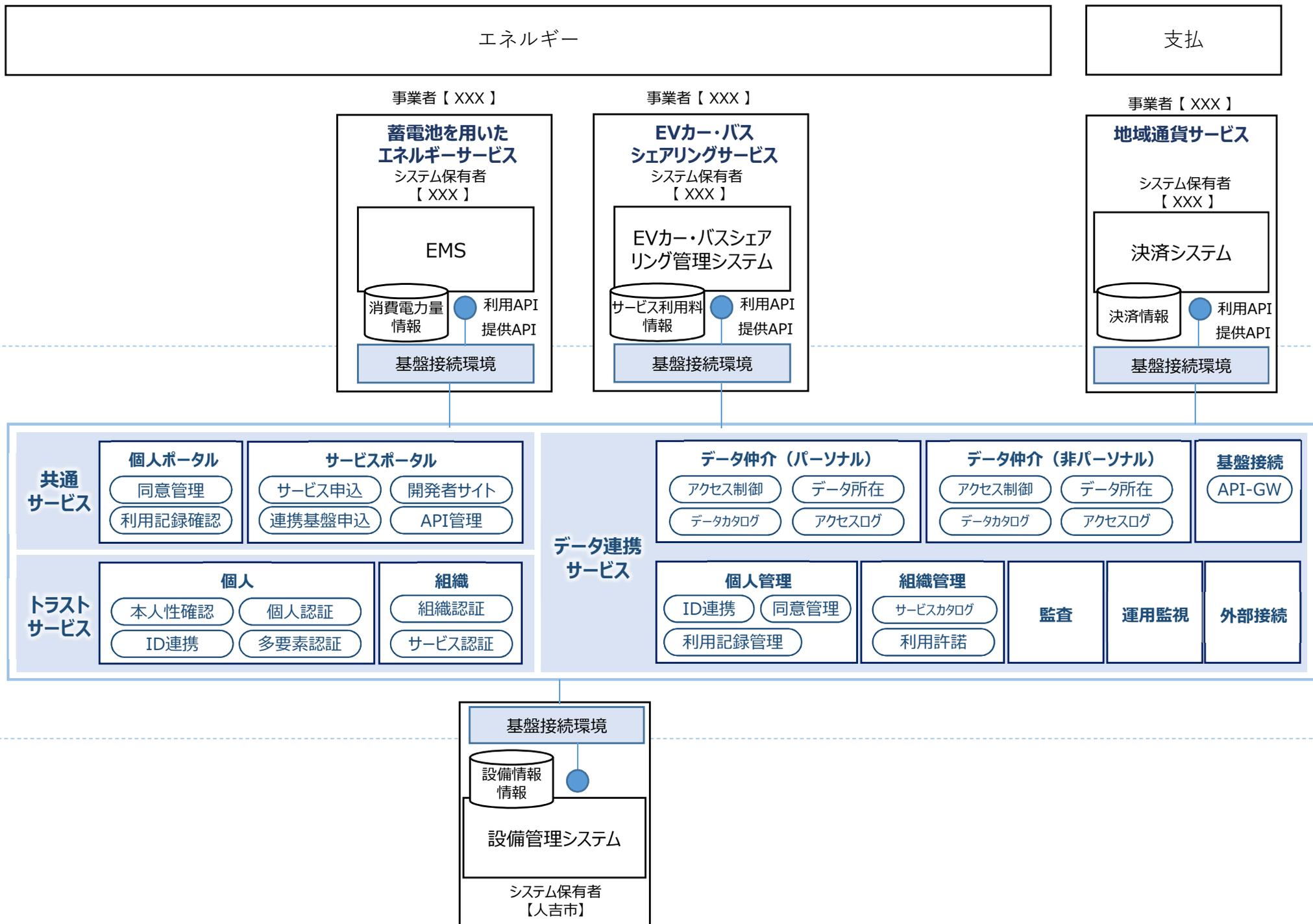


分野

先端的サービス

データ連携基盤

データ提供
インフラ

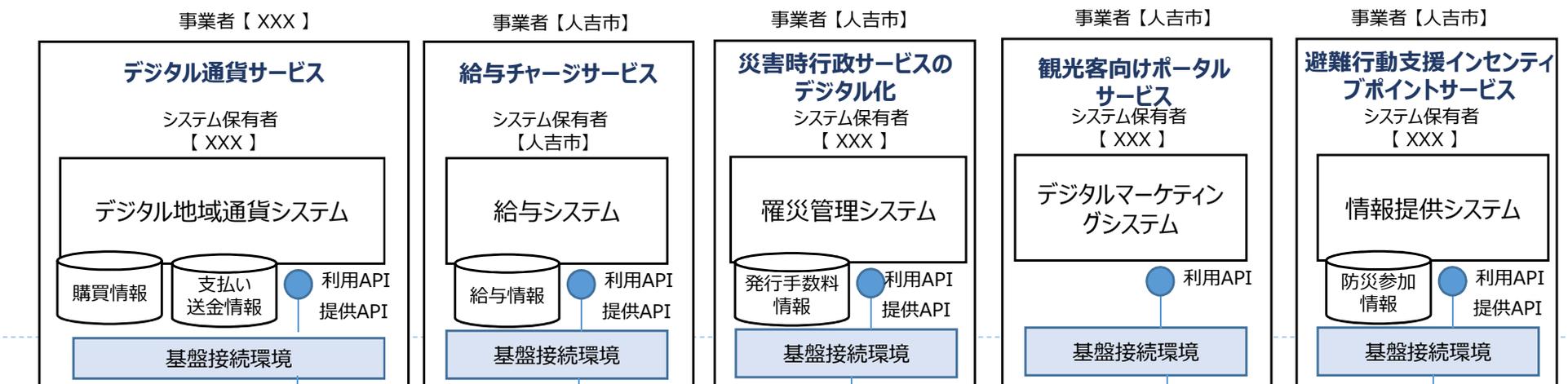
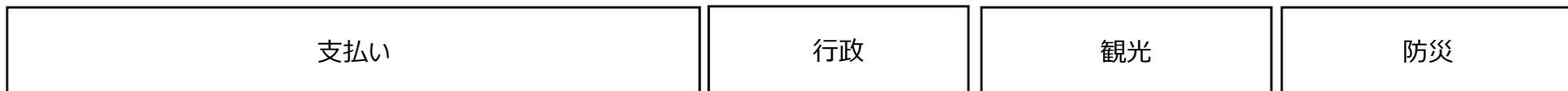


分野

先端的サービス

データ連携基盤

データ提供インフラ



分野

先端的サービス

データ連携基盤

データ提供インフラ

